

本別町を知るきっかけをつくる

井原來実 岩本瑞紀 坂井葵 伏見萌恵加

概要

本別町の観光客に着目し、お祭りを知ってもらおうとする活動とした。

1. はじめに

私たちがこの課題に取り組んだきっかけは、本別町の商店街に人があまり来ていないということから始まった。そこから試行錯誤し、最終的には「本別町を知るきっかけを作る」という課題に設定し解決に向けて活動した。

2. 課題について

本別町の知ってもらうためにはどうしたらよいのか。

3. 現状分析について

現状分析として、まず、観光客数を調べてみた結果、夏と冬の観光客の差が広く町外からの観光客数が年々減少しているということが分かった。(表1) このことから「来る理由がない」のではないのかと考えた。

さらに、着目点を絞り、表2もある通り夏場と冬場の観光客数の差を減らすこととした。



【表1：本別町の観光客数】



【表2：夏と冬の観光客数の差】

4. 仮説について

- ・観光客数が少ない冬に夏と同じようなイベントを行えば冬の観光客数が増えるのではないかと。

5. 解決策について

「もっと認知されるように来てもらう理由を作る」ことから始めようと考えた。私たちは二つの提案事項を考えた。(表3)

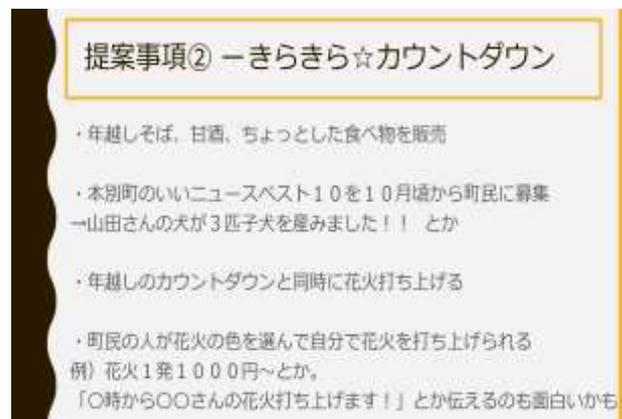
1つ目

冬場のイベントの観光客数を増やすため「豆まかナイト」「雪明りナイト」など現在あるイベントにプラスして豆を使った温かい食べ物の提供、花火の開催などを行う。

2つ目

キラメキタウンフェスティバルのようなお祭りを冬にも行う

例) 大みそかのカウントダウンに花火を打ち上げる



【表3：(案) きらめき☆カウントダウン】

6. 成果と課題

[成果]

- ・現在、本別町の観光客数が時期により差があることを知り、夏休み中や土日にどんな人が来てくれているのか知るきっかけになった。
- ・本別町のお祭りの内容を改めて知り、本別町の特産品などホームページを通じて発見でき今後お祭りなどで出店するのはどうだろうかという繋がりを見つけることができた。
- ・成果発表の日にたくさんの町の方々に私たちの

考えを知ってもらうことができ、これから協働で改善していけるのではないかと思い、改善の一步になることができた。

【課題】

- ・ 解決策を考えることができたが、内容を深く濃くすることが不足していた。
- ・ お祭りなどでどんな内容をプラスしたらよいかを考え、商工会や役場の方に提案してみることが必要だと思った。

7. まとめ

今回の活動では、当初の話し合い当初と大きく変わってしまい改善策を一から考え直すことがありましたが、最終的には一つに収まることができよかったと思う。

今までクラスのメンバーと話し合う機会が少なかったが、今回の活動で多く話せることができよかった。反省点としては、班員の中でもっと情報共有しておくよかった。

今後は、11/15に提案したように、商工会や役場の方とお話をして5の解決策を提案し実現できるようにしたいと思う。

最後にこの活動を通し、多くのアドバイスや相談に乗っていただいた藤井さん、門田さんそして福地先生をはじめ先生方、本当にありがとうございました。

参考文献

- (1) 本別役場企画振興課、本別役場より換算

本別町を知るきっかけをつくる

岩本瑞紀 井原来実 伏見萌恵加 坂井葵

概要

観光客の少ない冬にイベントを行い本別町に来るきっかけを作ろうというプロジェクト

1. はじめに

観光客が垂本別町に来るきっかけを作るという課題に取り組んだ。

2. 課題について

- ・夏と冬で観光客数に差がある。
- ・町外からの観光客数が減っている。
- ・一部のイベントしか知られていない。

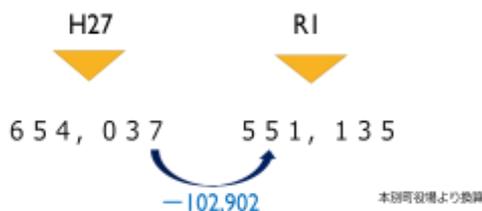
以上の理由から「本別町を知るきっかけを作る」を課題とした。

3. 現状分析について

休日に地方ナンバーを見ることが少ない。コロナ禍で長期休みにも関わらず人が少ない。この現状をロジックツリーを使って深掘した結果、最終的に「もっと認知されるようになってもらう理由を作る」事で本別町を知ってもらうことができると考えた。

現状分析として、

① 本別町の観光客調査



このことから、本別町の観光客数は年々減少していることがわかる。

② 夏と冬で観光客数の差



このことから、観光客数が平成27年から令和2年にかけて減少しており、以下のことが分かった。

- ・観光客数が夏に比べて、冬のほうが大幅に減っていることがわかる。
- ・9月の観光客数の約半数はキラメキなどのお祭りに来る人だとわかる。

4. 仮説について

「観光客が少ない冬に夏と同じようなイベントを行えば冬の観光客数が増えるのではないか。」という仮説を立てた。

5. 解決策について

提案事項① 雪あかりナイトとのコラボ

- ・今あるイベントに新しい要素を加える。
- 例) 温かい飲み物、スープの提供、花火打ち上げ

提案事項② きらきら☆カウントダウン

- ・年越しそば、甘酒など食べ物を販売
- ・本別町のいいニュースベスト10を10月頃から町民に募集。
- ・年越しのカウントダウンと同時に花火を打ち上げる。
- ・お金を払うと色や形を選んで自分好みの花火を打ち上げられる。

6. 成果と課題

[成果]

- ・根拠をしっかりと調べたうえで解決策を立てることができた。
- ・色々な人の意見を取り入れながら進めることができた。

[課題]

- ・行き詰まり活動が途中で止まった期間があった。
- ・長期休みをうまく活用することができなかつたので、計画性をもう少し持つべきだった。

7. まとめ

班で意見を出し合ったり、コーチや先生の力を借りてここまで来れてよかった。

まだ実践まで行けてないので町の人と話し合いなどして少しでも実践できればいいと思う。そのために今出ている提案事項2つをもっと具体的にしていきたいと思う。

参考文献

本別町役場企画振興課

本別町を知るきっかけをつくる

坂井 葵 岩本 瑞紀 井原 来未 伏見 萌恵加

概要

本別町の夏と冬の観光客数の差に焦点をあて、冬の観光客数を増やすことで本別町の認知度を上げることで課題を解決する。

1. はじめに

本別町の観光客が減少している事実を受け、その減少を止められないかと考えた。

2. 課題について

- ・夏と冬の観光客に差に着目した。
- ・本別町で行っているイベントに着目した。
- ・町外からの観光客に着目し、イベントの認知度について考えた。

3. 現状分析について

本別町の観光客数は図のとおり、5年間で約10万人減少していた。



【図：本別町の観光客数】

また、その原因を調べると、冬のイベントの認知度が、夏に比べて少ないことが分かった。(表)



【表：夏と冬での観光客数の差】

4. 仮説について

観光客数が少ない冬に、たくさんの人に興味を持ってもらえるイベントを行い、認知してもらうことで、観光客数が増加するのではと考えた。

また、もともとある冬のイベントと協働することで、大規模なイベントを実施できるのではと考えた。

5. 解決策について

もともと冬にやっているお祭りに協力してもらい、花火大会などを実行すればよいと考えた。

6. 成果と課題

[成果]

- ・本別町の現状を調べ、解決策を立てることができた。
- ・自分たちの活動を客観視することや、様々な角度から考えることができた
- ・今後の活動について考え、提案事項や大まかな計画を立てることができた。

[課題]

- ・解決のために必要な情報ははじめに明確にしておけば、もっとスムーズだったかもしれない。

7. まとめ

今回の活動は、初めに立てた課題の根拠が薄く、何度かやり直す結果となってしまったことが一番の反省点として挙げられる。

これからもまだ活動が残っているため、より伝わりやすく、納得できるものになるように改善したい。

参考文献

- (1) 本別町役場企画振興課

本別町を知るきっかけをつくる

伏見萌恵加 井原來実 岩本瑞紀 坂井葵

概要

本別町を知るきっかけを作る。

1. はじめに

本別町をどうやって知るきっかけを作るかを考えた。

2. 課題について

- ・夏と冬に観光客数に差があること。
- ・町外からの観光客数が減っていること。
- ・一部のイベントしか知られていないこと

3. 現状分析について

観光客数が平成 27 年から令和 2 年にかけて減少していると言える。(図)



【図：本別町の観光客数】

4. 仮説について

観光客が少ない冬に夏と同じようにイベントを行えば、冬の勘顧客数が増えるのではないかと考えた。(グラフ)



【グラフ：本別町の観光客数】

5. 解決策について

既にあるお祭りに協力してもらい花火大会を行えば、観光客数が増えるのではないかと考えた。

6. 成果と課題

[成果]

本別町に観光客がどのくらいきているのかの原因を調べた

[課題]

あるお祭りと協力して花火大会を行う。

7. まとめ

雪明りナイトやマメまかないとの既にあるお祭りに協力してもらい、花火大会を行うことを考えた。

プラスでまめを使った暖かい食べ物を提供花火大会の開催を役場の方や商工会の方に提案したいと考えている。

参考文献

R3 本別町の観光入込数